

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校)

都道府県名	大分県
-------	-----

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宇佐市立駅館小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	24
児童数	46	43	49	56	43	53	2	292	

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

基礎学力の定着を図る学習指導法の工夫
 ——学習過程・教科担任制・チャレンジタイム・少人数指導を通して——

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数(系統性がはっきりしているのに、その子のつまずきが発見しやすくつまずきを克服することによって、わかる喜びを味わわせ、自信を持たせることができるから。)

全学年 国語(文意の読みとりが不十分だったり、自分の考えを自分の言葉で説明できなかったりという実態と言語についての知識、理解、技能の定着に個人差があったため。)

(2) 年次計画

平成
14
年度

テーマ 基礎学力の定着を図る学習過程のあり方はどうあればよいか
 ——算数科・国語科を中心にして——

仮説 算数科や国語科の授業で、学習の形態を工夫したり情動的・内容的・論理的側面の育成を学習過程の中に有効に仕組んだりしていけば、学ぶことの楽しさや充実感を味わいながら基礎学力の定着を図ることができるであろう。

研究内容・方法
 朝読書
 チャレンジタイム(帯時間の設定)
 国語科・算数科における学習過程
 算数科全学年を複数で指導
 国語科1, 5, 6年を複数で指導
 5, 6年教科担任制

平成
15
年度

テーマ 基礎学力の定着を図る学習指導法の工夫
——学習過程・教科担任制・チャレンジタイム・少人数指導を通して——

仮説 算数科や国語科の授業で基礎学力の内容面を明確にもち、学習過程の中に有効に仕組み、学習の形態・資料、素材の提示・指導の仕方を工夫すれば、学ぶことの楽しさや充実感を味わいながら基礎学力の定着を図ることができるであろう。

研究内容・方法
朝読書
チャレンジタイム（帯時間）
国語科・算数科における学習過程
国語科・算数科において全学年複数で指導
5，6年教科担任制
少人数、習熟度別指導
国語科、算数科における評価規準・国語科、算数科以外の評価規準作成
総合的な学習の時間の全体計画とねらいを作成
*今年度は教科担任制との兼ね合いで他の教科の評価規準も作成した。

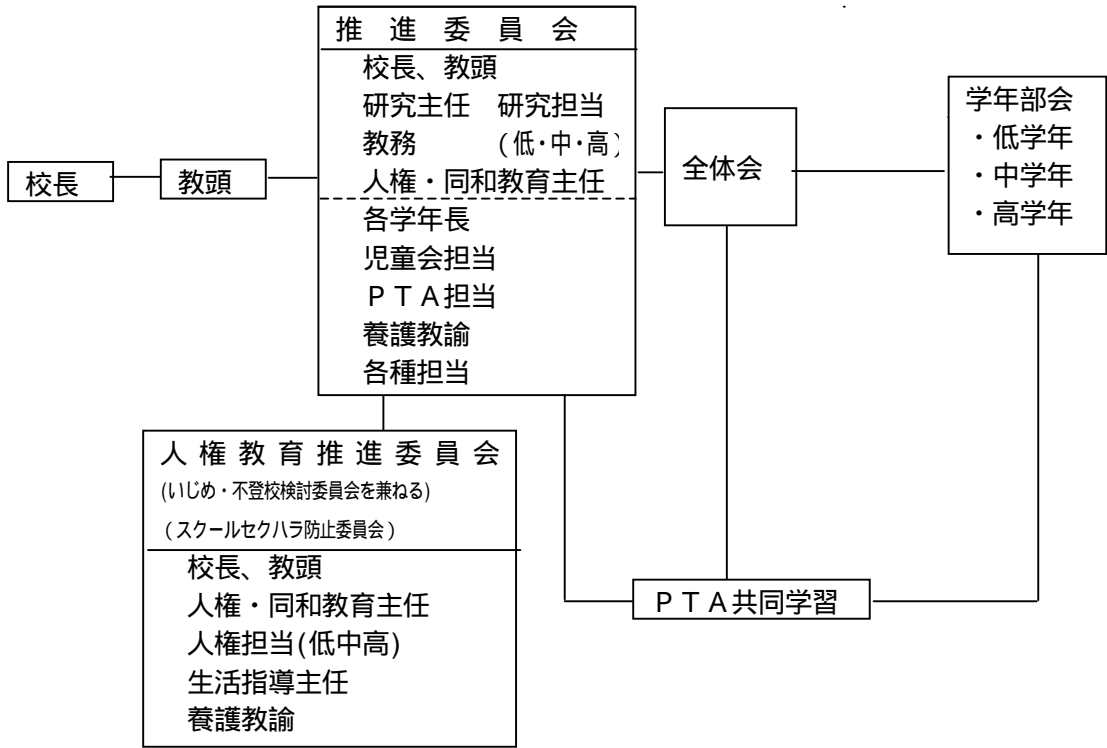
平成
16
年度

テーマ 基礎学力の定着を図る学習指導法の工夫
——学習過程・教科担任制・チャレンジタイム・少人数指導を通して——

仮説 算数科や国語科の授業で基礎学力の内容面を明確にもち、学習過程の中に有効に仕組み、学習の形態・資料、素材の提示・指導の仕方を工夫すれば、学ぶことの楽しさや充実感を味わいながら基礎学力の定着を図ることができるであろう。

研究の内容・方法
朝読書、チャレンジタイム（帯時間）
国語科・算数科における学習過程
国語科・算数科において複数で指導
5，6年教科担任制
少人数、習熟度別指導（「話す」に視点をおいて）
評価規準の見直し
総合的な学習の時間の全体計画とねらいの見直し

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) T T指導について

入門期ひらがなの習得におけるT T一斉指導

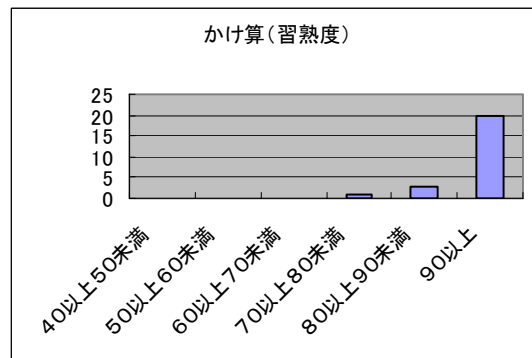
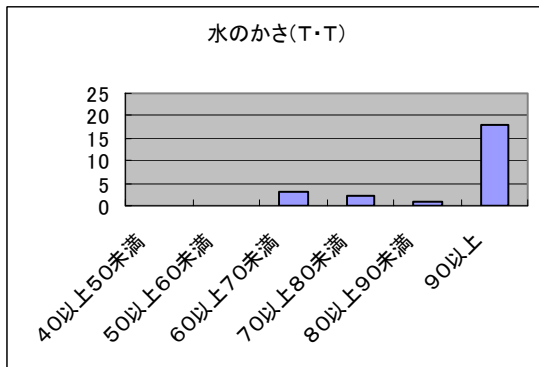
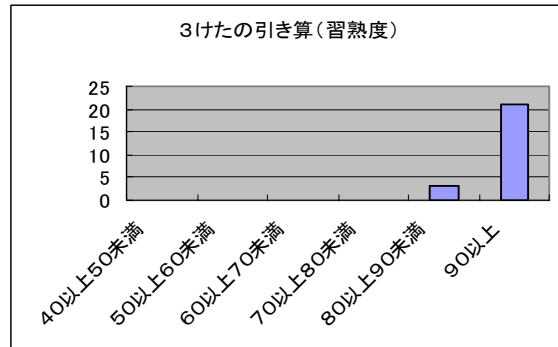
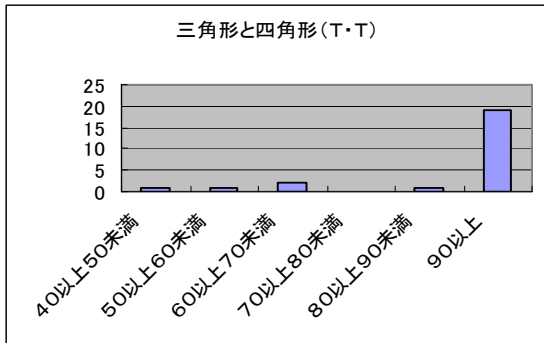
入学当時より「ひらがな」がなかなか読めなかったA児は、5月27日、ひらがながどれくらい読めるか調べたところ、ほとんどの子どもが46文字読めるのに対して、7文字しか読めなかったが、文字指導において、T T個別指導をすることで、7月2日には、37文字読めるようになり、1学期の終わりには、46文字全て読めるようになった。また、「書く」指導においても、

A児は、6月2日時点で3文字であったが、個別指導を行った結果3ヶ月後には、36文字書けるようになった。このように、入門期におけるひらがなの習得においては、個別指導が必要であり、T Tが効果的である。

	6月2日現在	9月2日現在
0～10文字	1人	0人
11～20文字	0人	0人
21～30文字	0人	0人
31～40文字	0人	1人
41～45文字	8人	0人
46文字	14人	22人

T T一斉指導と習熟度別指導の比較

昨年度から算数科はT Tで学習を進めている。本年度は、「効果的なT Tのあり方はどうあればよいか」と、いろいろな方法を試みている。1学期、3年生では単元によりT Tによる一斉指導と、少人数習熟度別指導を試みた。「三角形と四角形」「水のかさ」をT T一斉指導でおこなった。この場合、T 1が主になり授業を進め、T 2は理解が遅い子どもについて指導をおこなった。「3けたのたしざん・ひきざん」「かけ算」は、少人数習熟度別指導をおこなった。単元後のテストの結果からわかるように、習熟度別指導で行った場合の単元テストの定着の方がT T一斉指導の場合よりもグラフが右寄りで70点未満の子どもがいなくなった。

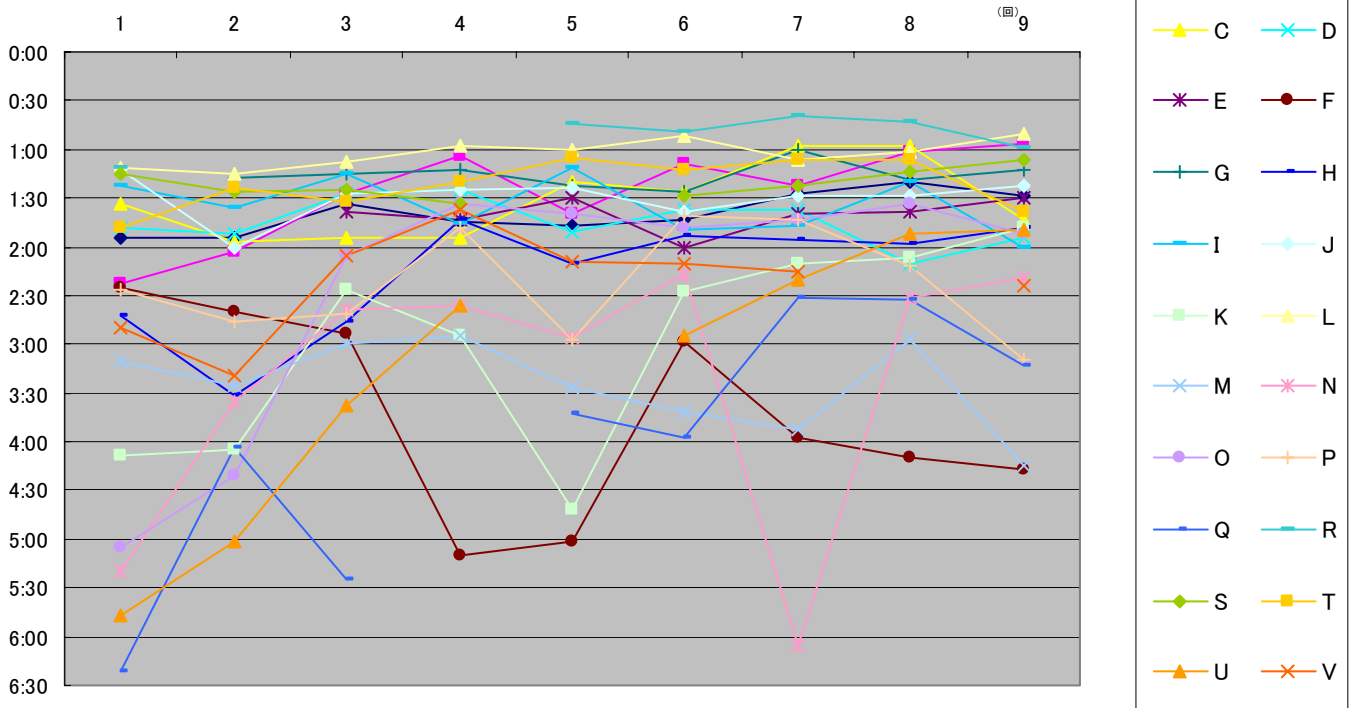


TTによるデータ処理で客観的に個別に分析し指導にあたる

2年1組算数「くり下がり30マス計算」では、第1回目は、22名の子どもたちの終了時間の差が、5分以上であったが、TTでデータを残し、個別に指導にあたることで、9回目では、その差が3分30秒に縮まった。また、全体的にタイムが速くなり、5分以内に全ての子どもが解答までできるようになった。

資料2

2年1組算数 くり下がり30マス計算

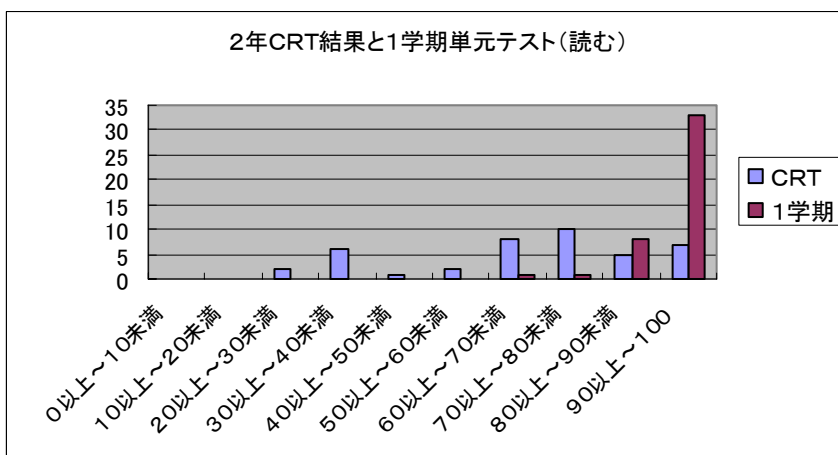


少人数課題別

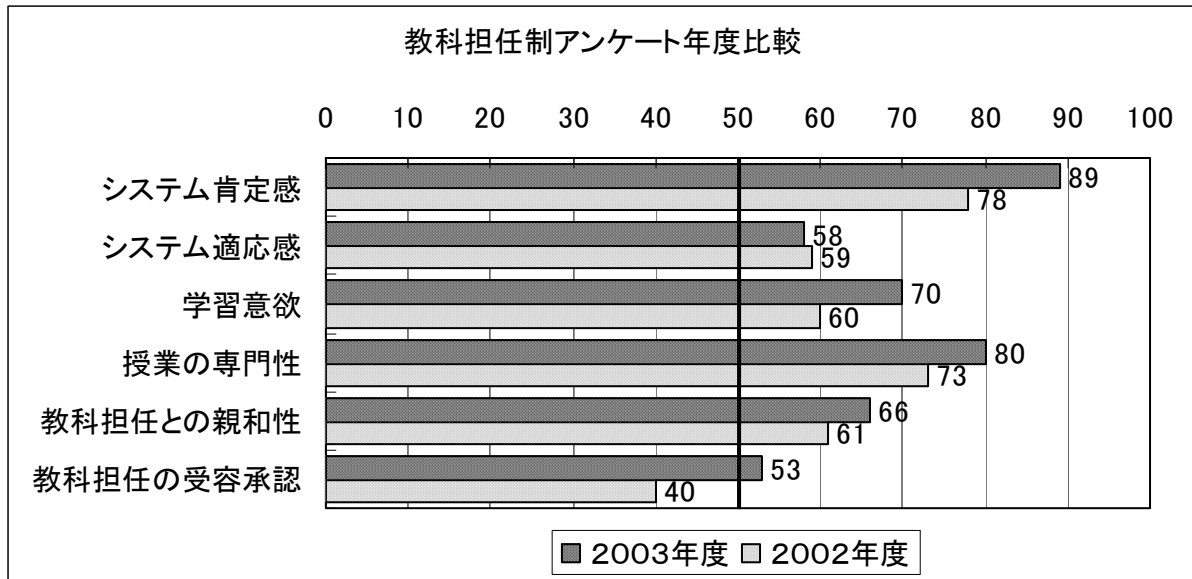
物語文「スイミー」を赤い魚たちとスイミーの様子や気持ちを考える際、少人数課題別の二つのグループに分けて授業をすすめた。少人数で、同じ課題を持った子どもたちのグループなので、一人ひとりが発表する場を設定することができた。1単位時間毎に、二つのグループの交流をさせていったので、始めはかみ合わない会話もあったが、お互いのグループでどんな様子や気持ちを話してくるだろうと予想しながら話し合っていたので、授業の終わりの方は、出し合う場面で気持ちがかみ合っていた。少人数課題別で目的をはっきりとして展開していったことが「読

み」を確実にしていった。その結果を単元テストと、昨年度のCRTと比べてみると子どもの定着が右寄りになっていることがわかる。TT役割演技や少人数課題別の授業が有効である。(左図)

2年CRT結果と1学期単元テスト(読む)



(2) 5、6年教科担任制について
平成14年度と比較して言えること

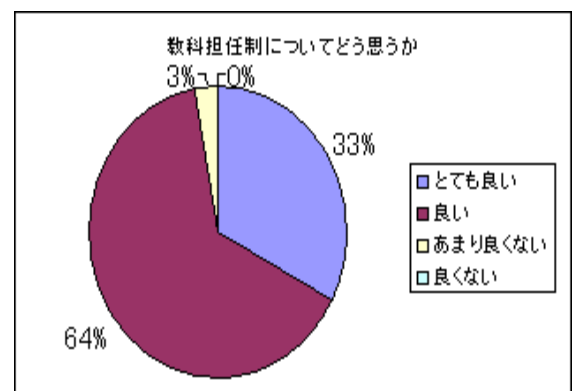


システム肯定感	1	教科担任制(いろんな先生に勉強をおしえてもらうこと)はいいと思う
	2	いろんな先生とふれあうことができるのは楽しい
	3	いろんな先生の教え方や考え方が学べるのはいいと思う
	4	教科担任制は中学校への練習になると思う
	5	教科担任制は私にとってプラスになっていると思う
システム適応感	6	授業ごとに先生がかわっても困らない
	7	もっと学級担任の先生と勉強したいとは思わない
	8	教科担任制になっても、学級担任の先生がわたしのよさや悩みをわかってくれている
	9	授業のペース(進むはやさ)が速すぎると感じることはない
	10	宿題の量が負担になっていない
学習意欲	11	私はどの先生の授業も、いっしょうけんめい取り組んでいると思う
	12	内容がわかりにくいときは、教科担任の先生に聞こうと思う
	13	好きな教科が増えたと思う
	14	どの授業でも宿題を忘れずにやっている
	15	1学期、授業の中で自信をもったり、頑張ったよかったと感じたことがある
授業の専門性	16	どの教科の授業もだいたい理解できている
	17	勉強がよくわかるようになってきたと思う
	18	楽しく勉強できることが増えたと思う
	19	授業がよくわかるように、教え方を工夫してくわしく教えてもらっていると感じる
教科担任との親和性	20	どの先生の言われることでもすなおに聞くことができる
	21	声をかけてくれる先生が、増えたと思う
	22	体の調子がわるいとき、どの教科担任の先生にも話せる
	23	教科担任の先生に、授業以外の時間で注意されたりほめられたりすることがある
	24	教科担任の先生とも気軽に話をするようになったと思う
教科担任の受容承認	25	授業の中で、意見や考えをみとめてもらうことが増えてきた
	26	教科担任の先生の授業でのがんばりを担任の先生がほめてくれることがある
	27	教科担任の先生もわたしの努力やよさをわかってくれていると思う

27項目のアンケート結果(5,6年全員)を平成14年度と比較してみると、システム肯定感(1~5)は、昨年度より11ポイント増え、ほぼ9割に達する。システム適応感(6~10)の平均は、あまり変化は見られなかった。しかし、「宿題の量が負担になっていない」の項目が大きく15ポイント増えているのは、以前より一人ですらすら解けるようになったことや家庭学習の習慣がついてきたと言える。「授業の進む速さが速すぎると感じることはない」が10ポイント、「授業ごとに教師が変わっても困らない」が7ポイント減っているのは、初めて教科担任制になる5年生にその傾向が強く表れている。学習意欲(11~15)は、10ポイント増えたことは評価できる。授業の専門性(16~19)についても、「教科担任制」を始めて2年で、8割の児童がその専門性を感じて勉強がよくわかる、楽しい、教え方が工夫されていると答えている。教科担任との親和性(20~24)、教科担任の受容承認(25~27)については、ともに伸びている。教科担任との親和性は、66%に達した。特に教科担任の受容承認の部分が53%と5割を超え「教科担任制」の定着が進んできたことが感じられる。

保護者の声～アンケートより～
教科担任制についてどう思うか？

	とても良い	良い	あまり良くない	良くない
5の1(20/21)	4	14	2	0
5の2(18/22)	6	12	0	0
6の1(16/27)	5	11	0	0
6の2(19/27)	9	10	0	0
合計	24	47	2	0



保護者のアンケートから「教科担任制」を「良い」と捉えている人が64%、「とても良い」と捉えている人が33%、両方合わせると97%となる。このことは、教科担任制に大多数の人が「賛成している」と捉えて良いと思われる。プラス面から考えられることは、専門分野・得意分野が生かされて授業がわかりやすくなることに肯定感を見出している。また、多くの先生と関わることで多様な人間関係を持てることに意義があると感じている。さらに、中学へ進学した時のことを考えて、システムに段差がなくなりスムーズにいくと考えている。以上のことは、教科担任制を実施するにあたって私たちが考えたねらい通りである。

子ども・教職員の声

子どもの声

- ・詳しく教えてくれたり、工夫した授業があって楽しい
- ・先生達が2人でいろいろ工夫してくれるのでつぎはなにをするのかたのしみだ
- ・分からないところをわかりやすく教えてくれる
- ・算数や国語で自分の意見が言いやすい、質問がしやすい(T・T指導で)

教職員の声

教科担任制2年目になって、教材研究の深化が図られるようになってきた。昨年の実践の反省から、年間指導計画を作成する段階で具体的目標を設定し、昨年の定着度を見ながら修正していった。また、日々の授業の中でも柔軟な取り組みが図れるようになってきている。

5・6年を通して教科担任をすると、2年間を見通した指導という点においても自然に考えていけるようになってきた。

T・Tによる指導形態も教科担任が考えている指導を提案でき、活性化につながっていると考えている。教職員の中にも教科に対する責任感や意欲が生まれ、1時間の授業が濃厚なものにな

ってきていると考える。そのため学習内容の定着度もいっそう図られる結果となってきた。
 教師の意識が、子どもたちの学習について責任を持って指導するというように改革されてきたことが成果といえる。

生活指導面より

生活指導の面では、一つのクラスに多くの教師が関わることによって、様々な表情を見せる子どもたちの様子が把握でき、適切な指導が行えるようになってきた。

(3) 基礎学力を学習過程の中に有効に仕組み、指導法の工夫について

主眼から本時の基礎学力を明確にし、本時案の中に評価方法と共に示す。基礎学力は、評価規準を基に主眼と照らし合わせて作る。

例 5年2組算数科(ばっちりコース)

題目 いろいろな三角形の面積を求めよう。

主眼 三角形の高さが底辺の延長線上にあるときでも、平行四辺形に倍積変形することで、「底辺×高さ÷2」の公式を使って求積することができる。

本時の基礎学力

既習の図形に変形することができる

高さが図形の外にある場合でも公式が適用できることを理解する。

(操作活動・ノートで評価)
 多い子どもでも6つ、少ない子どもでも1つは、既習の図形に変形することができた。

(操作活動・発言内容・自己評価カードで評価)
 全員が、ミアゲール・タカサー君を図形の外へ移動させ、高さがどこになるのかを理解したと思われる。

学習指導法の工夫(本時を中心に)

過程	どう仕組んだのか (教師サイドで書く)	学習指導法の工夫 (指導形態・資料、素材の工夫など)	成果と 課題
つかむ	単元を通してBカイトのパーツの面積を求めようという課題意識を持たせた。	学習する図形をカイトの中に入れ、学習順に配列した。教科書にでてくる図形がそのまま使えるようにした。ばっちりコースとチャレンジコースとで課題の図形を変えた。	毎回同じ方法で学習するので、課題をとらえさせる時間の短縮になった。 実測で図形の構成要素を測り計算する経験をさせることができた。
みつめる	合い言葉を使い、習った形にすればいいというストラテジーを身につけさせた。考えるだけでなく、体でおぼえることができるよう、作業をさせた。	・ワークシート(マス目の中に課題となる図形がかかれてある画用紙)を切り貼りさせた。 ・自分たちだけの合い言葉を使って、楽しく勉強させるとともに、求積問題を解決するストラテジーや既習の図形の求積公式を身につけさせた。	「楽しい」という声が多く出た。 10名全員が求積公式3種類を暗誦できるようになった。

だ し あ つ ・ ふ か め る	キャラクターを使い、楽しく勉強できるようにした。	マグネット付きの図形を黒板に位置付けながら発表した。底辺と高さの関係をつかませるよう「ミアゲール・タカサー」君を全員に持たせた。	用語（底辺・高さ）や底辺と高さの関係を理解できた。発表するためのよりどころがなく、自分の言葉で発表させる工夫が必要だったかもしれない。（今回は発表に重きを置いていないが）
ま と め る ・ こ ん げ ん	今回は、カイトの中でも台形の部分の面積を求めていくという視点を与えた。	自己評価カード，Bカイト，ミアゲール・タカサー君	自己評価カードで，全員が正答となる式を立て，ほとんどの子どもが答えを出した。発言内容から「タカサー君が壁を破って高さを探す」という操作を理解できたと思う。

(4) チャレンジタイムについて

掃除終了から15分間の帯時間のチャレンジタイム（水曜日を除き、週4回）は1学年2クラスに教師が3人で指導する。（1クラス・国語1教師、1クラス・算数2教師で支援）

算数は、個に応じたドリル学習を行い計算力の向上を図る、国語は、漢字の習熟を図る目的で行う。毎日のドリルの進み具合を把握するチェックカード「どこまでできたかな」に日付を記入し、定期的におさらいテストをして定着を図る。また定着できていない部分の補充をしたり、十分定着できている場合は発展問題を用意したりする。（下図）小さな引き出しにたくさん入っている。また、途中でわからなくなったら挙手して先生にたずねる約束をしている。

どこまでできたかな 1 3年 組 名前

	たんげん名	1回目	2回目	3回目	まちがえたかん字
一	きつきのしょうばい				
二	きつきのしょうばい				
	まとめのテスト 1				
	まとめのテスト 2				
三	こんなこと、したいな				
四	ありのぎょうれつ				
五	ありのぎょうれつ				
六	国語辞典たんげん				
	まとめのテスト 3				
	まとめのテスト 4				



2. 今後の課題

(1) T・T授業における課題

放課後の時間がほとんどなく、T・T授業を組んでいくときの話し合いの場、時間の設定が昨年に引き続きむずかしいが、取り組むことで子どもの変容があきらかになることを思えば、今後わずかな時間を意識して設定していくことが課題である。また、学期はじめに、みんなで作成した評価規準をもとに、この単元は、TT指導・少人数・習熟度別指導など学習形態をはっきりさせて授業計画を考えていきたい。

少人数指導を導入していく上での場所の工夫はできたが、小黒板の購入や教具の工夫に努めたい。

少人数指導、習熟度別指導を取り入れた授業を地域保護者に公開しながら理解してもらうことも欠かせない。

(2) 5、6年教科担任制における課題

学級担任と子どもたちの結びつきや教科担任の子どもの把握がしっかりできるのかというところで保護者は心配をしている。「教室移動で戸惑いがあるのではないか」や「学習規律が教科によって少しずつ違って戸惑う」という声については、高学年部会を定期的にもち、情報交換をしながら揃えられるところは揃えていく必要がある。

児童理解のために、宿題のバランスや学習規律の統一を図っていかなければならないと考えている。

保護者のアンケートの「あまり良くない」という3%の声や賛成ではあるけれども不安・心配の声を受け止め、今後の指導に生かしていく。

(3) 全職員の共通理解

今学校ではより多くの職員で「朝読書」「そうじ」「チャレンジタイム」などの取り組みをおこなっている。しかし一つひとつ共通理解をし、皆が同じあゆみをしなければ崩れていく可能性が高いと思われる。年度始めに全職員の共通理解、共通認識が大前提であると考える。

・学力把握のための学校の取組について

定期的な学力調査の実施：標準学力テストCRT（1～4年国語・算数 5、6年国・算・理・社）
（調査目的）学年末に標準学力テストをすることにより、子どもの学習定着状況を掴み指導法の工夫改善の見直しをする。定着できていないところを学年末に補ったり、家庭との連絡をとり協力をお願いしたりする。

（対象学年）全学年

（実施時期）2月中旬 学力検査「CRT」算数・国語

定期的な学力調査の実施：課題テスト（国語・算数・理科・社会）

（調査目的）学期毎の学習内容が定着できたかどうか、指導法の見直しをすることを目的とする。

（対象学年）5、6年

（実施時期）9月1月・休業中の課題テスト

定期的な学力調査の実施：学力テスト（国語・算数）

（調査目的）文科省より

（対象学年）5年

（実施時期）11月

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

平成14年	6月20日	第1回校内研究会	対象：ブロックの小中学校	学校評議員
平成14年	11月8日	学校間連携推進地域連絡会		
			場所：中津下毛教育会館	
			対象：中津管内各学校の研究主任	
平成14年	11月19日	第2回校内研究会	対象：ブロックの小中学校	学校評議員
			宇佐市新採用者	
平成15年	1月29日	駅川ブロック学校間連携学習会		
			場所：宇佐教育会館	
			対象：小学校3校・中学校1校全員	
平成15年	6月19～20日	第1回校内研究会	対象：ブロックの小中学校	学校評議員
平成15年	8月6日	駅川ブロック学校間連携学習会		
			場所：宇佐教育会館	
			対象：小学校3校・中学校1校全員	
平成15年	8月26日	別府管内学校間連携連絡会		
			場所：安岐町役場	
			対象：別府管内小中学校長	
平成15年	11月13日	第2回校内研究会	対象：ブロックの小中学校	
平成16年	6月23日	公開発表会	対象：県下・全国	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	■ 14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	